図画工作、美術

令和７年度　授業改善のポイント

１　児童生徒の表したいことや主題を基に表現したり鑑賞したりできるよう、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸にした学習活動を工夫する。
２　児童生徒の学習経験を確認し、各学年における指導事項や内容の取扱いと指導上の配慮事項を踏まえて、育成する資質・能力が系統的に身に付くように指導計画を作成する。

表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた授業づくり

【指導事例】「生活の中の器～身近な人をおもてなし～」（中学校第１学年）

〇目的や機能などを考えた表現（「A表現」(１)イ(ｳ)、〔共通事項〕(１)アイ）
〇作品や美術文化などの鑑賞（「B鑑賞」(１)ア(ｲ)、〔共通事項〕(１)アイ）

ポイント１　表現と鑑賞の指導の関連を図る際には、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考え（**学習の中心**）を軸に、それぞれの資質・能力を高められるようにすることが大切です。発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させて学びを積み重ねることで、より豊かで創造的な「思考力、判断力、表現力等」の育成につながります。

学習の中心：使う目的や条件などを基に、使いやすさや機能と美しさを視点として、形や色彩などを工夫し、心を込めて相手をもてなすデザインを考える。

１　鑑賞（１／10時間）

材料の性質や質感を捉えさせるために、実際に器を手に取らせ、その感触などを十分に確かめさせるとともに材料の可変性などに気付かせることが大切です。

- 器を触ると表面がザラザラしていたりツルツルしていたりといろいろだな。
- 確かに。模様が描かれている器もあるよ。これは、伝統文様の授業で学んだ「青海波」の文様だね。
- 模様も入れると素敵だね。形もいろいろだ。どんな形の器にしよう…。もっと違う形や色彩の器も見てみたいな。
- タブレットで調べたら、日本各地の焼き物を見ることができたよ。阿仁焼というものもあるんだね。黒地に白い色彩のコントラストがいいね。

ICT 実物の鑑賞から得た気付きに加えて、生徒自らがタブレット端末で器を検索することで、多様な形や色彩などの器を見ることができます。それが表現活動の主題を生み出したり構想を練ったりする力を高めることにつながります。

学習の中心

２　発想や構想（２・３・４／10時間）

鑑賞の学習で学んだことを生かしながら、形や色彩、扱う材料などの美しい組合せや、機能的な側面と使用する者の立場に立った客観的な側面とで捉え、それらの特性を生かして発想や構想をさせることが大切です。

- 自分で釣った魚を盛り付ける皿をつくるんだ。見て。タブレットに、アイデアスケッチを描いてみたよ。
- お皿の縁がギザギザして、波のような形で面白いね。色は何色にするの？
- 海の色からイメージして、青色にしようかな。アイデアスケッチに青色をつけてみるね…どうかな？
- すごい、まるで海のように見えるよ。
- 楽しいデザインだね。使う人のことや実際に使う場面も考えましょう。
- はい、家族みんなで使います。皿の縁がとがっていると…持ちにくいかな。縁の形を考え直してみます。

ICT タブレット端末上では形や色彩を容易に変更することができ、思い付いたことなどをすぐに表すことができます。

ポイント２　学習を終えたとき、「器をつくったこと」だけが生徒の中に学びとして残るのではなく、「使用する人の立場などから、使いやすさや機能と造形的な美しさを調和させるためには何が大切かを考えること」を学びとして身に付けていることが重要です。また、第２学年及び第３学年では、使う対象を身近な存在に求めるだけでなく、社会的視野の広がりに合わせて、社会一般の不特定の人々を対象として想定することが大切です。

重要

発想や構想と鑑賞に関する資質・能力の相互の関連を図ることは、表現活動において発想や構想と関連する創造的に表す技能を高めることにもつながります。

表現と鑑賞は密接に関係しており、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の相互の関連を十分に図り、資質・能力を身に付けられるように指導計画を工夫する必要があります。